

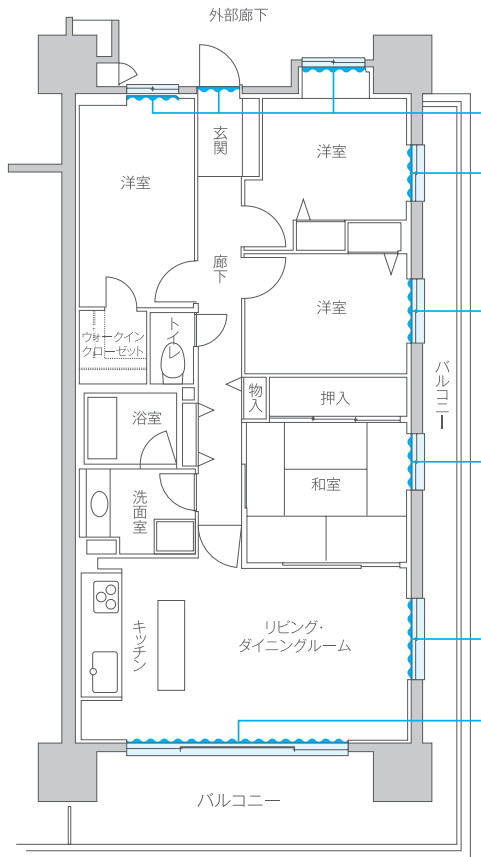
「結露」「カビ」発生の予防

近年、サッシや玄関ドアの気密性の向上とともにお部屋の気密性は想像以上に向上しています。

そのため、給気口などを上手に使うことで意識的な換気が必要です。

換気が十分になれないと結露が発生しやすくなり、カビの発生につながります。

マンションの気密性と結露・カビについて



結露の発生メカニズム

結露は暖かい空気が冷たいモノに触れて発生します。お風呂上がりに洗面室の鏡が瞬時に曇るのがまさに結露のメカニズムです。冬の季節、温度の低い玄関にリビングなどから暖かい空気が流れ込むと玄関ドアが結露する場合があります。長時間にわたり結露が続くと、水漏れと間違えうほどの「結露水」で玄関の床がぬれる場合があります。特に気温の低い冬の季節は、暖かい空気の流れに気をつけてください。

※結露がしにくい複層ガラス等でも結露が発生する場合があります。また、アルミの部分では結露が発生しやすいです。

冬場の結露

換気に気を付け、 室温を下げすぎないことがポイントです

一般的に居室内の水蒸気量（空気中の水分量）が高く、サッシ等の表面温度が低いほど、結露しやすい状態となります。冬の季節は玄関や北側の居室は気温が下がり、同時に壁やサッシなどの建具の温度も下がっています。そういった季節は換気を心掛け、室温を下げすぎないようにしてください。

湿気をためないためにも、換気することが重要です

結露やカビ発生を防ぐためには、湿気を溜めないように換気が重要になります。室内の空気を循環させ、空気の流れを作り出す24時間換気機能を活用しましょう。ユニットバス天井内に設置された24時間換気機能付き浴室暖房乾燥機で各居室の給気スリーブから、外気を取り込み、室内の空気を排出します。空気の流れを作り出すために、給気スリーブは開けておきましょう。（台風など雨の吹き込みがある場合は閉じておいてください。）

給気スリーブの汚れ予防

お部屋内の給気口周りは空気の通り道となるため給気スリーブやその周りのクロスは外気により汚れやすくなります。汚れ予防には、給気スリーブフィルターの設置が有効です。

※給気スリーブフィルターは定期的な清掃をお願い致します。フィルターは3～5回の水洗い清掃を目安に新しいものと取り替えてください。

カビの除去方法

発生したら、増える前に取り除きましょう。塩素系のカビ取り剤を塗って所定の時間経過したら洗い流します。発生箇所がひどい部分は、ブラシなどで軽くこすって落としてください。塩素系カビ取り剤は、酸性の洗剤を混ぜると危険な塩素ガスが発生するので、十分換気をしてください。また、壁や家具などについたカビは、アルコールで殺菌し完全に乾かした後、薄めた漂白剤でカビのシミを落とすことができます。

COLUMN

チャタテ虫の発生

チャタテ虫は黄褐色で体長約1～1.5ミリ程度の小さな虫です。畳や布団、枕、植木鉢、古本などに生息し、直射日光の当たらない高温・多湿の場所を好みます。羽はなくダニと間違えられることが多いのですが、血を吸うなど人体に直接の害はありません。チャタテ虫の主なえさはカビなので、チャタテ虫が大量に発生するということは、カビが発生していることになります。また、チャタテ虫が発生するとこの虫をえさにするダニが増殖する可能性が高まるので、早めの駆除が必要です。

駆除の方法については、多少の発生では被害もほとんどありませんので、洗剤で拭き取ったり、掃除機で吸い取るなどしてください。発生箇所が床や壁面であれば、防疫用殺虫剤などの専用のものを塗ってください。また、大量発生した場合は、害虫駆除業者等のプロへのご相談をおすすめします。